

会議議事録

会議名	令和 7 年度 学校関係者評価委員会
開催日時	令和 7 年 7 月 10 日 木曜日 18 : 30～19 : 45 (1 時間 15 分)
場所	マロニエ医療福祉専門学校 3 号館 視聴覚室
出席者 (敬称略)	①評価委員 川村 祐也 (医療法人常盤会 緑の屋根診療所) 須藤 智宏 (医療法人心救会 小山富士見台病院) 亀田 美智子 (公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事) 長沼 亜季 (MO 後援会 会長) 日原 芳行 (マロニエ同窓会 副会長) (計 5 名) ②学校教職員 羽山 潔 (マロニエ 校長)、岩瀬 明雄 (小山歯科 校長)、絹谷 幸男 (事務局長)、 宮内 修 (司会、マロニエ／小山歯科 統括部長)、矢口 剛 (マロニエ 統括部長)、 向山 弘一 (理学療法学科長)、野尻 真生 (作業療法学科長補佐)、 今井 貴子 (看護学科長)、栗田礼子 (歯科衛生学科長)、 半田 享 (広報部長)、小林 享嗣 (学校評価事務局、学生サポートセンター) (計 11 名)
配布資料	・ 令和 7 年度 学校関係者評価委員会 次第 (事前配布) ・ 令和 6 年度自己点検・自己評価結果 (事前配布)
進行 議題内容 各詳細は 別紙の通り	1. 開会 (挨拶、配布資料確認) 開会が宣言された後、配布資料の確認を行った。 2. 出席者紹介 (評価委員、学校教職員) 各出席者の自己紹介が行われた。 3. 校長挨拶 岩瀬校長より開会の挨拶が行われた。 4. 学校関係者評価の進め方説明 本会の進め方の説明が行われた。報告書は事前配布のため、その場での読み上げは行わず、内容に対する質疑応答を行う旨が伝えられた。 5. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明 報告に対する質疑応答及び補足説明が以下の順に進められた。(別紙 1) 委員による下記以外のその他意見等は、別途「学校関係者評価報告書」に記載する。 1. 合格率について 2. 退学率について 3. 学生支援について

	4. 学生募集活動について 5. 資料請求について 6. 意見交換と学校関係者評価の総評 羽山校長より総評が伝えられた。 —閉会—
--	---

議事記録者：小林享

5. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明

1. 合格率について

【委員からの意見】

「国家試験合格状況（2024）」について、目標合格率が 2023 年度の合格率より低く設定されている学科もあり、どのような根拠で目標を定めているのか教えていただきたいです。（日原）

【回答・補足説明】（宮内）

すべての学科が国家試験合格率 100%を目指して取り組んでいる。目標とする合格率は、結果として出た合格率がそれを満たしているかを設定しているものである。その設定については、全国平均の直近 3 ヶ年の平均としている。たとえば、今年度(令和 7 年度)の目標値は、令和 4 年度～令和 6 年度の平均(新卒)となる。これは平均を超えることで得られる評価が普通以上であることによる専門学校(ライセンス校)としての信頼性を担保するものと考えている。

【委員からの意見】

看護学科の国試合格率が全国平均より低かったことは残念です。全国的に既卒者の合格率は低いため、できるだけ卒業年度の合格を目指すことが大切。学生の方々には国試への意気込みが 3 年生に進級後直ぐに取り組めるようご指導していただきたいです。（渡邊）

【回答・補足説明】（今井）

低かった要因として、1・2 年からの学習の必要性や資格取得の重要性の動機づけが弱かったことが理由の 1 つと分析している。それとともにアプローチが 3 年次 8 月になってからになってしまった。実習と並行して隙間時間の活用は行っていたが、強力な働きかけは不足していた。

今年度は 4 月から上記について複数回ガイダンスを実施し、計画的に模試の苦手な深掘り学習と担当教員制で確認することを進めている。

2. 退学率について

【委員からの意見】

退学率の評価が「2」となっているが、そもそもどれくらいの退学率を想定していますか？

（古い資料ですが、厚労省 H29.6.26「調査結果」だと 4 年制（昼）25.6%、3 年制（昼）20.3%の退学率となっていたので。）（日原）

【回答・補足説明】（野尻）

ご意見いただいた厚労省の調査結果と比べると当学科の退学率はそこまで悪くないが、学科として前年度より減らしていくことを目標としている。本年度は前年度より退学者の数が増員してしまった事、加えて 2 年連続で退学者数を増加させてしまったことをふまえての評価とさせていただいた。

【委員からの意見】

看護学科通信課程、歯科衛生学科の退学者“0”を考察することも必要。資格取得へのモチベーションの差が退学者数に影響していると思います。(川村)

【回答・補足説明】(栗田)

昨年度は幸い、進路変更の学生がいなかったため、退学者ゼロとなった。

また、欠席が増えてくると資格取得へのモチベーションが下がってくるので、基本的に3日間連続で欠席となった時に、保護者に連絡を入れるようにしている。そして、欠席の事を保護者が把握しているかどうか、把握しているのであれば、その理由を共有していた。まれに保護者が知らないうちに休んでいることがあるので、その場合は欠席の状況をお伝えし、何か心当たりはないか聞き取りをするようにしている。学校を休んでいる理由が進路変更につながる様な事であれば、早急に面談を入れるようにしている。こまめに連絡をして、電話やLINEで繋げていき、学校に来た際には面談をして気持ちの所在を確認する。という事を繰り返している。休みが多くなってくると、補講や追試が多くなり、自分でスケジュール管理ができなくなってくる学生もいるため、担任が個別のスケジュール調整をし、カレンダーを作成し、「何をいつまでにやればよいのか」を理解させている。

長期の休みに入る前には全体指導をして、いろいろな誘惑に負けない事、何かあったら必ず学校に連絡をする事を話している。

【回答・補足説明】(宮内)

看護学科通信課程では通信課程という性質上、基本的に自宅学習であり、働きながらの大人を相手にしているので、とにかく声掛けを密に行った。学生は家庭や仕事等、どうしても学習を最優先にはできない学生も多いので、LINE等の媒体などを用いながら学生の背中を押すようなサポートを行っている。

3. 学生支援について

【委員からの意見】

「学生支援」の立場から“退学率の低減”に向けた対策は記載内容以外でありますか？(須藤)

【回答・補足説明】(矢口)

SD委員会において「過去5年間の退学者傾向」をテーマに勉強会を実施。本校における主な退学理由は成績不良によるものだが、その背景には様々な根本的な要因が重なり合っており、学科においてはその把握と個別サポートの強化に努めている。その他、学生サポートセンターにおける成績不良の対策として、初年次教育を導入して、入学前から学びへの動機付けや基礎学力の補強・向上のためのセミナーや課題配信等を実施するとともに入学後も放課後学習会等を実施している。

4. 学生募集活動について

【委員からの意見】

少子化や4年制大学が増えていることで、全国的に看護専門学校の入学者が定数に届かない学校が増えていますので、貴校が学生募集に実施していることがどのように評価されているのか、具体的な特徴を教えてください。(渡邊)

【回答・補足説明】（半田）

1つ目の特徴として、本校は栃木県内にある11校の看護専門学校のうち、唯一助産学科を設置する学校である。昨年度より内部推薦制度をリニューアルし、助産学科定員のおよそ2割を本校看護学科在校生のための枠としていることをパンフレットにも記載し、ガイダンスやオープンキャンパス、高校訪問においてもアピールするようにしている。

その結果、将来的に助産師を見据えている看護師希望者にとっては、難関である助産師養成校への入学の道が比較的容易になることが魅力となり、看護大学に進学できる学力のあるような方や、ご自宅の近くに他の看護学校があるような方も本校を選んでくださっている。

2つ目の特徴は、本校看護学科は専門実践教育訓練給付制度の対象講座になっているということである。こちらは昨年2024年8月に指定を受けることができ、そこからホームページ等で対象講座になったことをアピールした結果、今年の4月には数名の社会人の方がこの制度を利用する形で入学してくださっている。

この制度は栃木県内にある11校の看護専門学校のうち、本校を含めた5校において利用できる制度のため、唯一とはいえないが、社会人を呼び込む有効な手段として今年度のパンフレットには看護学科トップページに記載し、ホームページにも新たに社会人向けの専用ページを設けてアピールしている。

→内部推薦制度は今年から始まったのか？（亀田）

→内部推薦は昨年度から開始していたが、内部進学はそれ以前からもあったが、条件が厳しい上に枠が少なかったため、看護3年生になってから条件を知って進学をあきらめてしまう学生もいた。昨年度から枠を増やし、その他ハードルも若干低く設定し、なるべく多くの学生が手を挙げられるようなシステムにリニューアルを行った。（半田）

→助産科があるのはとても魅力的である。全国的に4年制大学を希望する学生がとても増えてきており、専門学校でどうやって学生を集めるのかはどこも苦労しているが、看護協会としても協力をしながらやっていけたらと思うので、今後ともよろしくお願いしたい。（亀田）